

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



空の色も深くなり、いわし雲の美しい季節となりました。

厳しい暑さからやっと解放されたと思った途端、早くも富士山では初冠雪がありと、四季の

移ろいを実感します。



10月は、スポーツの秋、行楽の秋、芸術の秋・・・様々なことに適した時ですが、コロナの感染予防に加え、そろそろインフルエンザにも注意が必要になり、悩ましいところです。こころと身体の健康のために、まずは、店先にたくさん並ぶ旬の食材で食欲の秋を堪能しましょうか。

また、静かな秋の夜長、読書の秋も良いかもしれません。

そして、青く澄んだ秋の空に向かい深呼吸をして、ストレス無しの生活を心掛けましょう。どうぞ、お元気で！

快適な生活をするために（2）

前回に引き続き、皆さんに長く安全に過ごしていただくための住まいを長持ちさせるメンテナンスやチェックポイントなどをお伝えしたいと思います。

住宅は他の商品と異なり、四季の厳しい気象条件のもとで長期にわたり使われるものですから、住まい方、手入れの仕方で寿命が長くも短くもなります。

また、住宅は主要構造材として木材、鉄、セメント・・・などが使われていますので、これらの性質を理解しそれに沿った手入れが必要です。

いつまでも快適に暮らすための参考となる、住まい方と手入れのポイントについてまとめてみました。

【サイディング外壁】

サイディングは、継ぎ目にシーリング材を充填し、すきまや目地を塞いでいます。シーリングは特に劣化しやすいものなので、年毎に点検して下さい。



金属製サイディングは、表面塗装が錆びたり、ひび割れたりする前に塗り替えを行って下さい。

【モルタル外壁】

モルタル塗りの外壁には、竣工したばかりの住宅でも細かい亀裂が入っていることがよくあります。これは、モルタルが乾燥硬化する際、収縮するために生ずるもので、モルタルの性質上、ある程度は止むを得ない現象です。

また、モルタルは、亀裂が下地まで通らないように施工していますので、細かい亀裂のみで住宅の品質や性質が損なわれるということは通常はありません。

が、亀裂も大きくなれば雨水の浸入などにより、下地が腐朽したり、モルタルが剥離したりするような危険がありますので、日常の点検と補修が必要です。



次号に続く

「十三夜」

旧暦の9月13日、新暦では10月中・下旬。

ひと月前の十五夜に対して「後(のち)の月」又は収穫を迎える栗をお供えすることから「栗名月」とも呼ばれる月です。

十五夜に次いで美しい月とされ、宮中では宴を催すなど古くから鑑賞の行事が行われてきました。十五夜は平安時代に唐から伝わった風習ですが、十三夜は秋の収穫祭のひとつ?と考えられる日本独特の風習です。十五夜はスッキリしない夜空であることが多いことに対し、「十三夜に曇りなし」という言葉があるほど晴れることが多いようです。

十三夜の月は左側が少し欠けた趣のある形。冷たく澄んだ晩秋の夜空に浮かぶ、そんな月を眺めてみては如何でしょうか?



最初で、最後の1等賞



この時期になると、多くの学校などで開催される運動会ですが、今年は、コロナ感染を心配して中止になったり、規模を縮小したりと様々です。学校行事の中でも運動会は、家族ともども楽しみだったのに残念です。

今回は、そんな運動会にまつわる友人の思い出話をご紹介します。

私が小学生の頃は、毎年1回秋の運動会がありました。

綱引き、玉入れ、棒倒し・・・など数ある種目の中で1番人気は、グラウンドのトラック半周を走って順位を競う徒競走でした。

今までは、毎年背の順で6人ごとに走ることになっていましたが、身長が同じでも走る速さは人それぞれで、当然ながら足の速い子が1位になっていました。

小学校6年生になった時、今年は皆にとっては最後の運動会だからということで、先生方の提案で背の順ではなく、50m走のタイム別ですることになりました。

そうすれば、同じ能力同士の戦いになるため、毎年最下位だった子でも1位になる可能性が出てきます。

1位と2位は賞状がもらえるので、皆、2位までを目指して頑張ります。それでもやはり遅い子は本当に遅くて、その中でも常に最下位という子がいました。



その子は、ちょっと太っている所以他の子よりも走りが遅くて、トラック半周くらいの差がついてしまい、いつも最下位という結果に。

その年も少しは有利になったとはいえ、最下位は必須？という状況が予想されていました。

そして運動会当日、プログラムは進み徒競走の時間になり、ルールに従い順番に走り始めました。

いよいよ、その太った子の組になり、見ている人達も、「又どうせ、あの子が最下位だろうな」と思っていました。

ところが・・・

上位争いをしていた集団がゴール直前に転倒、それに巻き込まれた子たちも次々転倒、というアクシデントが発生。

転倒した子たちが、起き上がろうとしている間に、半周ほど差をつけられていた、あの太った子が走ってきて、何とその子が1位でゴールを決めたのです。



予想外の展開に、見ている人たちもびっくりしましたが、気が付くと皆がその子に拍手喝采。その子にとって、おそらく最初で最後の1等賞になったはず。

今更ながら、その時どんな気持ちだったのかを聞いてみたい気がします。

きっと、嬉しいような・照れくさいような気持ちだったのでは？ 彼にとっても、思い出に残る運動会だったと思います。

「編集後記」

日の落ちるのも早くなり、朝晩はめっきり秋めいてまいりました。

通常なら、運動会や秋祭りの賑やかな音声が聞こえる頃ですが、今年は未だ規制があり・・・静かな秋です。

何だか物足りない気もしますが、健康が第一です。

皆で一緒に楽しめるその時を楽しみに待ちつつ、お身体を大切にお過ごしください。

今月もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子